

理学療法部

1. 施設の整備状況

(1) 現状の概要

1) 設備

プール、物理療法器具全般、エルゴメーター、サイベックス

2) 人員構成

部長（教授、兼任）1名、助手1名、理学療法士2名、事務官1名

(2) 稼働状況、実績

1日当たりの患者数 平成11年47人、平成12年47人

年間当たりの患者数 平成11年11,160人、平成12年11,271人

リハビリの種類は 全例簡単170点 老人185点

2. 点検・評価（平成9年度～12年度）

(1) 効率化

1) IT化

再来予約、保険診療請求に導入している

2) 部門の統合・廃止

なし

3) 収益性

PT2名で多くの患者のリハビリテーションを行うために 保険診療上やむを得ず簡単で行っている。（複雑530点、老人580点で施行すると1日わずか24人しか治療できないことになる。）

(2) 貢献度

1) 院内

各科の患者治療を行っている。

2) 院外

各科の患者治療を行っている。

3) 地域社会

大分県及び他県のリハビリテーション学校に所属する学生の臨床実習、理学療法週間中の高校生の体験実習、他院のPTへの研修、指導

(3) 高度先進医療、医学の進歩への対応

各学会への参加、講習会での技術獲得、整形外科カンファレンスおよび整形外科教授回診への参加

(4) 組織の柔軟性（人事交流）

理学療法週間中の高校生の体験実習、他院のPTへの研修、指導

(5) 情報発信度

特になし

(6) リスクマネジメント

リハビリテーション前後におけるバイタルサインのチェック、リハビリテーション中の厳重な監視

(7) 教育

大分県及び他県のリハビリテーション学校に所属する学生の臨床実習
部長および助手による医学部学生のリハビリテーション教育

(8) 研究

サイベックスによるACL損傷患者の筋力評価
関節リウマチの術前、術後のADL評価 など多数

(9) 学会活動

日本リハビリテーション学会、九州リハビリテーション学会、全国理学療法士学会
国立大学理学療法士学会、九州地区PT・OT合同学会、大分県リハビリテーション学会、大分県リウマチケアフォーラム

3. 問題点とその対策

人員不足（特にPT,OT） 施設の老朽化、学生教育における設備の不備

4. 施設の将来展望

リハビリテーション診療科の設置